

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で個々の時間を大切にし、日々の生活が送れるよう支援し、運営推進会議を通し地域との交流や協力を仰ぎ、地域の一員として生活できるよう援助していく。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の中でも理念を意識し業務に取り組めるようホーム内に見えやすく掲示し、月1回のカンファレンスにおいても定期的に話し周知徹底に心掛けている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議にてホームの取り組みを家族や地域の方々に報告し、意見交換を行いより良い理念作りや地域に開けたホーム作りを心掛けている。	○ ・運営推進会議にて理念について今後も定期的に話し合いや意見交換を行っていく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	隣近所や犬の散歩を行っている方々に気軽に立ち寄ってもらえるよう挨拶を徹底している。又、入居者の希望で近くのコンビニに毎週週刊誌と一緒に購入しに出掛けることで店員とも顔馴染みの関係となっている。そのほかにも毎年中学生の体験学習の受け入れを行っており、グループホームや認知症について学んでもらっている。その際入居者のプライバシーには十分配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村との連携を図りながら情報交換や共有に努めていく。
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な勉強会の実施
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代時入居者へは精神面に配慮して説明を行っている。新しい職員へも引き継ぎや研修を十分に行っている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の質の確保、向上に向けた育成の必要性を認識し、法人内外の研修などに参加するよう奨励している。	○	・職員の外部研修の参加機会を増やしたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は行われていないが、運営推進会議にて他事業所がどのような取り組みを行っているのかを聞き、良いところは取り入れサービスの向上に努めている。また、県や全国の認知症グループホーム協会に加入し、情報提供を受けている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	カンファレンスを利用し職員の意見を取り入れ良好な環境作りに反映している。シフトの希望（公休）を調整し、体調管理やストレス軽減に努めている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な健康診断の実施により、職員の心身の健康状態を保つための体制を整えている。保有資格を活かした職員配置している。又、就業規則を掲示し守られている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった場合、専門の入居受付担当者が対応し、施設見学や入居の説明を行っている。その後、入居希望の面談に際しては管理者が行い、家族の思いやニーズを把握し信頼関係を築く事に心掛けている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居受付担当者が何が必要か見極め、必要に応じて関係機関との連携を図っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者と家族が良い関係を保ちお互いに安心して生活できるように配慮し、ホームで馴染みの関係を築けるよう趣味の活動や作業参加を交え支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ティータイムや趣味の活動、作業参加等個々の時間を大切にし、色々な活動を通し充実感や達成感を味わってもらい活気ある日々を送れるよう配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人をよく知るために家族との情報交換も大切にし、問題があった場合は家族にも状況を伝え一緒に問題解決に努めている。家族の希望により、高齢で外出行事が身体的負担になるとの理由から参加せず、一時的に自宅で介護するなど協力も得られている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	事情がありなかなか面会に来られない家族には、負担とならないよう電話で話をしてもらったりしている。その他定期的に近況報告も書面にて行っている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者にとって馴染みの場所に出掛けられるよう家族の協力を得て行っている。知人や親戚の方との電話連絡の援助も行っている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その人に合った活動への参加を促している。皆で協力し合って行う事で、誰かの役に立っていると実感できるようにし、更に人間関係作りにつながる働きかけを行っている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も変わらず管理者が窓口となり、いつでも相談に応じる旨を家族に伝えこれまで築いてきた関係を継続するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や知人の面会時入居者のプライバシーには十分配慮し情報収集を行い、ケアカンファレンスにて職員に情報を伝え、日々の生活に反映できるように努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人一人のライフスタイル、個性、価値観の把握に努めリラックスして自宅のように過ごせるよう居室の配置や習慣、日課を継続できるように支援している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状態に応じた趣味の活動や作業参加の活動状況を観察し、入居者の負担とならないよう休息と活動のバランスに配慮している。排泄状況を把握し失敗やなるべくオムツの使用をしないようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホームでの生活の中で個々の時間を大切にし、趣味の活動を楽しく行える環境作りに心掛け日々の中での気づきを反映した介護計画作成を心掛けている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者、家族や職員の意見や気づきを収集し実施期間に関わらず入居者の身体状況の変化や入居者、家族の希望の変化時には随時見直しを行うようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の日々の暮らしの様子、身体状況や会話等も含め具体的に記録し、家族とも情報交換を行い介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の援助をドライバーとユニットのスタッフで行っている。入居者が重度化した場合、家族の希望に応じて、法人内の有料老人ホームへ入居できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員等に働きかけ、地域との交流を図っている。保育園児との交流を図ったり、地域のねぶたがホームに寄ってくれるよう働きかけを行っている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2ヶ月に1回ホームに出張してもらい散髪を行っている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとのかかわりが少ない。	○	・権利擁護について職員間で理解を深め、必要に応じ地域包括支援センターや関係機関との協力体制の構築に努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年受診している病院へ継続して受診できるよう支援している。病状によっては本人や家族、医師と相談し病院を選択している。受診結果は面会時報告しているが、急を要する場合はその都度電話にて伝えている。訪問看護師とも連携し受診や服薬管理を行っている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族からの相談や主治医との相談の上、必要時随時認知症の専門医の受診を行えるよう支援している。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週一回の訪問看護師による健康管理が行われている。その際、健康相談や情報交換を行っている。必要時、受診に看護師が同行し医療との連携に努めている。看護師からの助言はスタッフ間でも共有できるようにしている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的な病院訪問により状態の把握に努めている。また、家族や医療機関と話し合いの機会を持ち、今後の対応や早期退院にむけて検討している。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院や身体状態の変化によりホームでの生活が困難になっても、医療機関や訪問看護師と連携し家族や入居者の意向を確認しながら支援している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入院や身体状況の変化によりホームでの生活が困難になった場合、利用者本人や家族の意向をふまえ医療機関や看護師と連携を図り対応を検討するようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	担当者に詳細な情報提供や日々の生活での注意事項等書面や口頭で行い、それ以外でも随時相談等受け付け入居者のダメージを最小限にできるよう配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の業務の中で入居者の言動を否定しないよう心掛けており、職員間でも入居者に対する声掛け等お互いに気をつけるようにしている。個人情報の管理には十分配慮し入居者や訪問者の目のつく所には置いていない。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ティータイムを利用しリラックスした中で思いや希望を表わせるよう働きかけたり、個々の状態に合わせた作業参加や趣味の時間を作るようにしている。また、役割を持つことで自己決定を促す場面を作っている。		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調や精神状態に応じた日課を支援し活動と休息のバランスをとり本人のペースに合わせ無理のないように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	長年利用している美容院を継続して利用してもらったり、化粧品や消耗品はいつも使っているものを一緒に購入している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し季節に合わせた食材を一緒に選び行事食等考えている。昼食は職員も一緒に摂り摂取のサポートを行いながら入居者との会話を楽しみ食事している。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今まで喫煙や飲酒の希望は聞かれていないがなるべく本人の希望に添えるよう家族と相談しながら病気や体調に配慮し提供している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄失敗の原因を探り、個々の排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導や介助を行っている。おむつの使用をなるべくせず自立排泄に向けた支援をしている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回程度の入浴とし清潔を保持できる様にしている。時間帯や曜日を入居者と相談の上、決定実施し気持ちよく入れるようにしている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベッドの配置やベッドではなく布団を敷いて休みたいという希望に対応し、気持ちよく休息できるようにしている。又不安を訴える入居者には添い寝をしたり落ち着くまで話し相手となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の状態に合わせた作業参加や趣味の時間、長年の習慣や楽しみを大切に日々を送れるよう支援している。		・

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者、家族と相談し小遣い金の管理ができる方は希望に応じ管理してもらい、買い物に行った際は支払いしてもらっている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の店に買い物に行ったり、中庭の畑作業や収穫を一緒に行っている。又歩行困難な入居者は中庭に出て日光浴を行ったり、外の景色を楽しめるように支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅の様子が見てみたいという希望が多い中、家族と相談し可能な限り実現できるよう支援している。家族と共に外出し外食を楽しまれる機会もある。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力を得て電話で会話し安心してもらったり、切手や封筒を準備し家族に手紙を出せるよう支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者にはお茶を出しゆっくり過ごして貰えるよう心掛けており、事前に連絡を頂ければ昼食も準備し一緒に摂取することが可能である。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束に当たるのか、又入居者にとって何が苦痛なのか日々の業務の中で常に考えケアにあたり、常時見守りが必要な場合はお互いに声掛けし注意しながらケアに当たっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出ると交通量の多い道路で危険であり、向かいにはパチンコ店があるため不特定多数の人の出入りが多い。家族の了承のもと玄関には防犯上の理由により常時鍵を掛けている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して定期的に在室確認を行い様子を把握し安全に配慮している。訪室時は必ずノックし声を掛けておりプライバシーに配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や消毒液等は入居者の手の届かない所に置き、カーテン等により目に触れないよう危険を防ぐ取り組みをしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	問題があった場合家族を交えて相談を行い、一緒に解決できるようにし、日々の業務の中でも危ないと思ったことがあった際、その都度気づきシートに記入し随時検討し事故防止に努めている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	カンファレンスを利用し救急法を勉強したり、設置している吸引機の使い方を確認している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に火災訓練を実施し、夜間も想定した非難訓練を行っている。運営推進会議にて災害時の地域の協力について依頼するも、新しい町会である為難しいとの事であり、今後の課題となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	問題がある場合必ず家族と相談し入居者、家族の意向を聞き家族の協力を得ながら対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	週1回訪問看護師による健康相談がある他、身体状況に変化がないか日々観察を行い、異常時には早期に病院受診できるよう援助を行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護師の指導により副作用や用法、用量の確認を行い観察している。又服用時かならず複数の職員で確認している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず自然排便できるよう訪問看護師から野菜等の摂取や水分摂取の必要性を説明してもらったり、援助を行っている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝晩のケアは必ず促し介助が必要な入居者は声掛けや洗面所に誘導するなど介助を行い清潔保持に努めている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日摂取状況を記録し、なるべく食事から栄養摂取するよう促している。必要であれば栄養剤を処方してもらい補給している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防として次亜塩素酸ナトリウム液で掃除、消毒を行っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒防止策として次亜塩素酸ナトリウム液（100PPm）で10分消毒後食器、調理器具を洗浄している。台所周辺や掃除の際も次亜塩素酸ナトリウム液を使用し消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花のプランターを置き明るい雰囲気作りに努めたり、犬の散歩等行っている近所の人への挨拶に心掛けている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけに心掛け、入居者の作品展示を行ったり、眩しくないように窓からの光に配慮している。又椅子の脚に防音材を貼り不快な音が出ないようにしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルは少人数で座るようにしたり、和室にソファを置き膝が悪くても利用できるような工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ等の電化製品を持ち込 んで使用してもらい少しでも自宅と同じように過 ごせるよう工夫している。配置も相談して行っ ている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室、ホール共に定期的に換気し室温も入居者 に合わせた温度設定にしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホーム内は要所に手すりがついており必要であ ればベットにも手すりを取り付けている。洗面所 や物干しも入居者が使用しやすい高さとなっ ている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個々の状態に合わせた作業参加や毎日の日課、 趣味の活動を継続して行うことにより、誰かの役 に立っていると自信をもって生活できるよう支援 している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	中庭に野菜や果物を植え収穫を楽しんだり、 ガーデンチェアやテーブルを置き日光浴や交流 の場となっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

訪問看護師の定期的な訪問により気軽に健康相談を行い安心してホームでの生活を送ることができる。状態の変化によりグループホームでの生活が困難になっても希望により同事業所の有料老人ホームへ転居することも可能であり継続してサービスを提供できる。